

長崎県中山間ふるさと活性化基金事業

1. 中山間ふるさと活性化基金の運用状況について
2. 平成25年度の実施状況報告について

長崎県中山間ふるさと活性化基金

1. 事業の目的

中山間地域が持つ国土保全等の多面的機能は、健全な農業生産活動を通じて農地や水路等が維持される中で発揮されてきた。しかし、近年では多くの地域で、過疎化、混住化、農家の高齢化に伴い、こうした施設の適切な管理が難しくなっている。

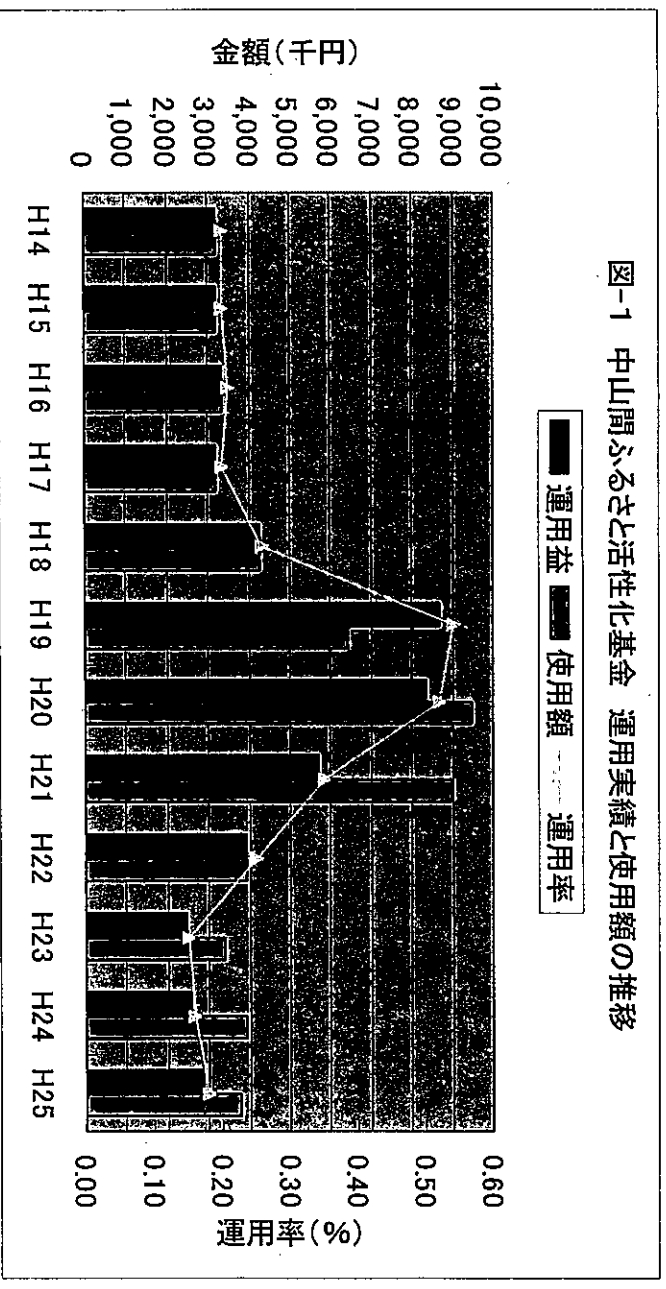
中山間ふるさと活性化基金は、このような課題に対して中山間地域の活性化に向けた地域活動を支援する制度として、もはや農家のみでは困難となってきた維持管理活動を、地域住民と共に行う体制を整備し、また広く国民に対しても中山間地域の重要性について理解を促し、交流を深めるなかで国民理解に基づいた活動の支援を目的とする。

2. 中山間ふるさと活性化基金の運用状況

(1) 運用実績と使用額の推移

- ・ H15年度からH25年度における運用実績は、運用率0.15%～0.54%の低金利状況。H25年度の運用率は0.18%。
- ・ H20年度から基金元本を取崩し、活動経費へ充当している。(図-1)

図-1 中山間ふるさと活性化基金 運用実績と使用額の推移



※H25年度末現在の基金元本残高は、1,599,262千円(約1.6億円)

※基金元本の取崩し額は、H20年度1,162千円、H21年度3,265千円、H23年度893千円、H24年度1,346千円、H25年度936千円(決算見込み)

※基金元本の取崩しは、低金利で運用益が少ない状況にあっても必要な事業が行えるよう、基金元本額の一定基準額まで認められている

3. 平成25年度の実施状況【3, 774千円：決算見込額】

(1) 県民への情報発信【804千円(21%)】

- ・都市住民へ農業農村について関心を持ってもらうこと及び農村の地域住民に対しては地域の良さを再発見してもらうことを目的に、一般向け情報誌を県内各市町、振興局等の行政機関窓口、公立図書館及びJA等440箇所へ計1,760部を配布。
- ・農業農村が持つ大切な役割を多くの人に知ってもらい、関心を高めていただくために、長崎県土地改良事業団体連合会と共催で「長崎の農業・農村写真コンテスト」を開催し、入賞作品については、各種農業関係イベント会場で展示を行った。

(2) 集落保全活動モデル地区支援による地域住民等への普及・啓発【1,646千円(44%)】

農地や土地改良施設の保全に対する住民意識の向上及び保全活動の必要性等の普及・啓発のため、県内の中山間地域等計8地区の地域住民活動等へ支援を行った。その結果、棚田地域を中心としたイベントへの都市住民や地域住民の参加者は、計11,466名である。(表-1)

表-1 H25年度集落保全活動モデル地区支援一覧

地区名	参加者数(人)	支援の内容
大中尾棚田(長崎市)	800	「大中尾棚田火祭り」の道路警備に要する経費
木場棚田(川棚町)	800	「木場棚田祭り」のシャトルバス借上等に要する経費
鬼木棚田(波佐見町)	6,000	「鬼木棚田祭り」のシャトルバス借上等に要する経費
土谷棚田(松浦市)	3,000	「土谷棚田火祭り」のシャトルバス借上に要する経費
谷水棚田(南島原市)	194	谷水棚田案内看板設置に要する経費
春日地区(平戸市)	206	案内冊子の印刷等に要する経費
小田山地区(雲仙市)	106	農業体験・収穫祭開催時の仮設トイレ借上費等
津波見地区(南島原市)	360	収穫体験バスツアーちらし作成等に要する経費
合計8地区	11,466	

(3) 長崎県ふるさと水と土指導員の研修及び活動支援【1,324千円(35%)】

- ・情報交換と知識の修得を図るため、長崎県ふるさと水と土指導員(以下「指導員」という。)を全国研修会へ派遣した。(表-2)

表-2 指導員の全国研修会への派遣状況(平成25年度)

研修名	期間	開催地	派遣人数
水田魚道設置指導者全国研修会	6/6～6/7	宮城県	1人
生きもの調査指導者養成全国研修会	9/26～9/27	埼玉県	2人
「田んぼの学校」指導員養成研修(現場指導者研修)	10/18～19	栃木県	1人
第19回全国棚田(千枚田)サミット	11/8～11/9	和歌山県	4人
第20回ふるさと水と土基金全国研修会	1/14～1/15	東京都	1人

・指導員同士の情報交換を図るため、長崎地区で1/9～1/10にかけて県内研修会を開催（指導員14名参加）
研修は1日目に座学研修（外部講師の講演、全国研修会受講報告、地元指導員の活動事例発表）を行い、2日目に地元指導員の案内・説明で長崎市の大中尾棚田の現地研修を実施した。

・指導員の活動に伴う万一の事故発生に備えるため、傷害保険及び賠償責任保険に継続加入した。

（4）県内棚田サミット開催による棚田保全活動の情報共有化【基金からの支出なし】

・H14年度から「日本の棚田百選」県内認定6地区の持ち回りで「長崎県棚田保全代表者会議」を毎年開催しており、各地区棚田保全活動における情報共有の場として活用されている。
・H25年度は、日向（木場）棚田を擁する東彼杵郡川棚町において開催された（参加者数 約60人）。次年度は南島原市で開催予定。

4. 指導員の認定状況

・指導員は、地域住民活動の活性化を図るため、土地改良施設や農地の利活用、都市住民との交流活動、普及・啓発活動などの地域住民活動に対して、指導・助言等を行う者で、市町の推薦に基づき県で認定している。

・H26年2月現在で、県下21市町のうち、10市町に19名が指導員に認定されている。（表-3）

指導員の構成内訳は次のとおり。

【男女比】

男性17名(89%)、女性2名(11%)である。（図-2）

【年齢構成】

40歳代 1名(5%)、50歳代 6名(32%)、60歳代 9名(47%)、70歳代 3名(16%)となっており、平均年齢は61.6歳で、最年少は40歳、最高齢は78歳である。（図-3）

【職業構成】

農業が10名(53%)と一番多く、会社員3名(16%)、自営業2名(11%)と続いている。

（図-4）

表-3 市町別ふるさと水と土指導員数(平成25年度)

(人、地区)

市町名	指導員数 (人)	「日本の棚田百選」認定		「長崎県のだんだん畑十選」 認定	
		地区 数	地区名	地区 数	地区名
長崎市	2	1	大中尾棚田	1	宮摺
佐世保市				1	勝負越
島原市					
諫早市	2			2	飯盛南部、野川内
大村市					
平戸市					
松浦市		1	土谷棚田		
対馬市	2			1	青海
壱岐市	1(1)				
五島市	1			1	上崎山
西海市	1				
雲仙市	3(1)	1	清水棚田	2	椎木川、辺木・小竹木
南島原市	3	1	谷水棚田	1	津波見
長与町				2	木場、長与岡北
時津町					
東彼杵町				1	坂本
川棚町	2	1	日向の棚田		
波佐見町	2	1	鬼木棚田		
小値賀町					
佐々町					
新上五島町					
計	19(2)	6		12	

※ () は女性の人数で内数

図-2 ふるさと水と土指導員数の推移

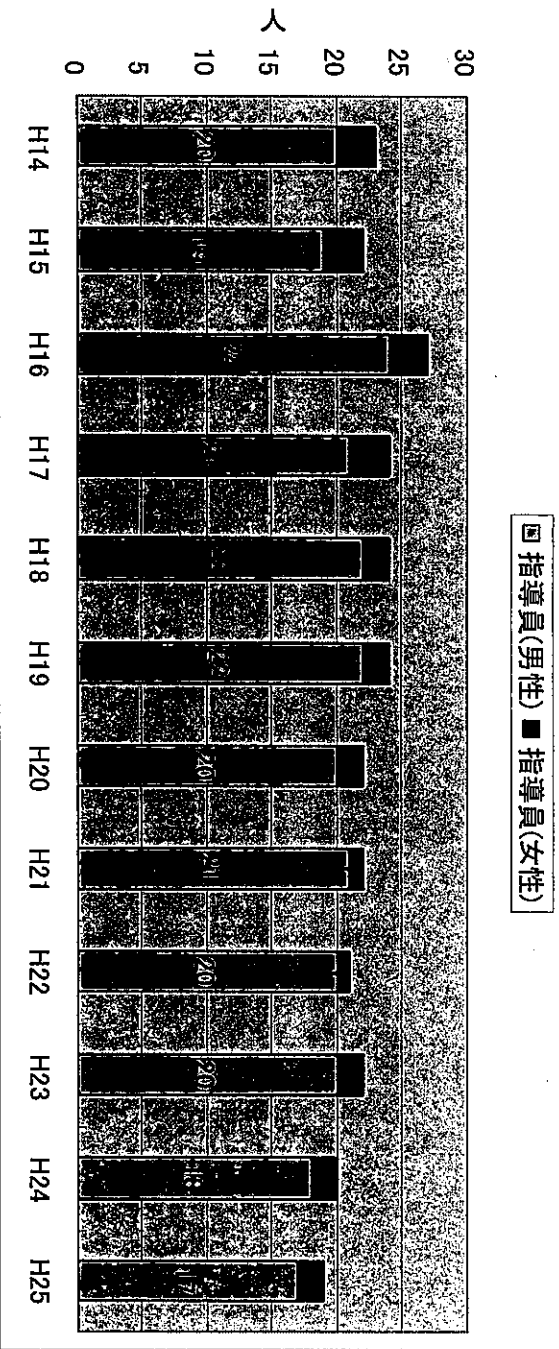


図-3 ふるさと水と土指導員の年齢構成(平成25年度)

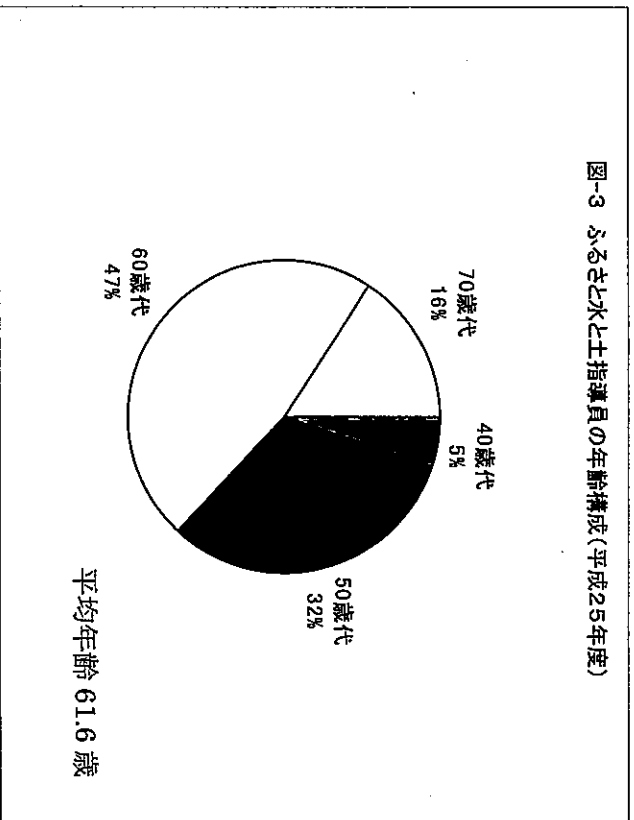
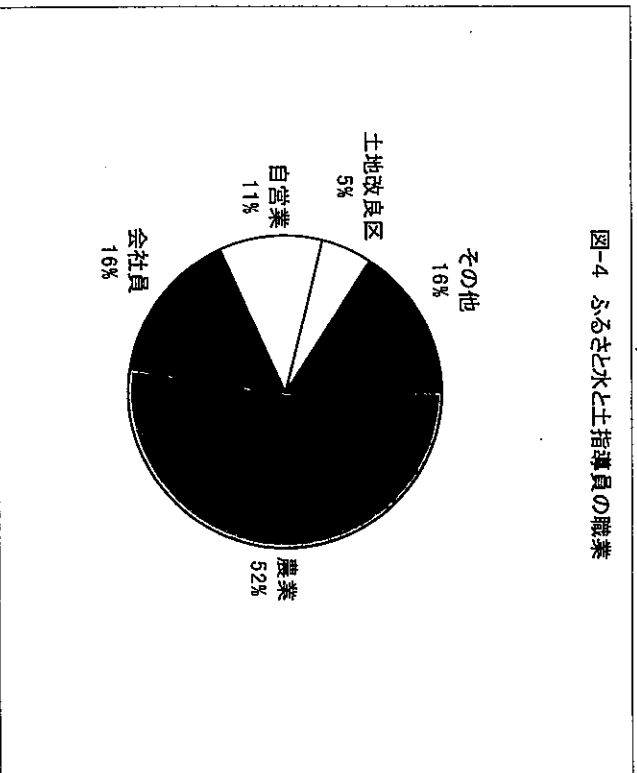
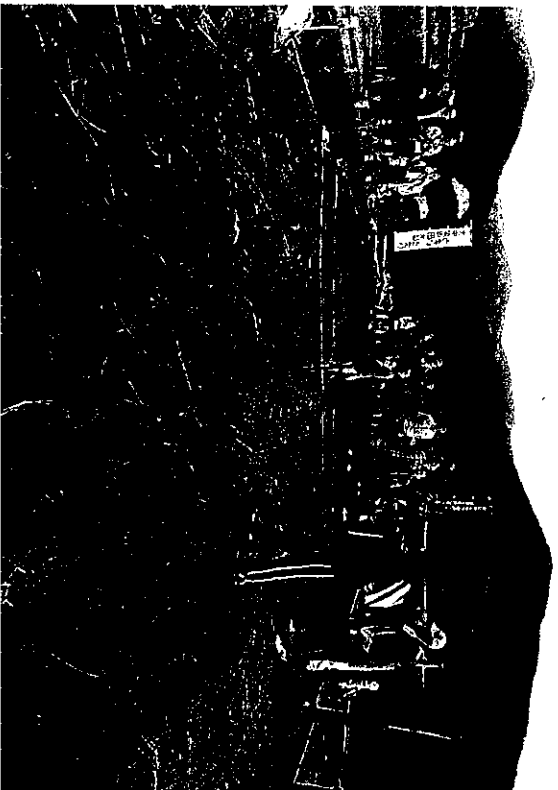


図-4 ふるさと水と土指導員の職業





長崎市

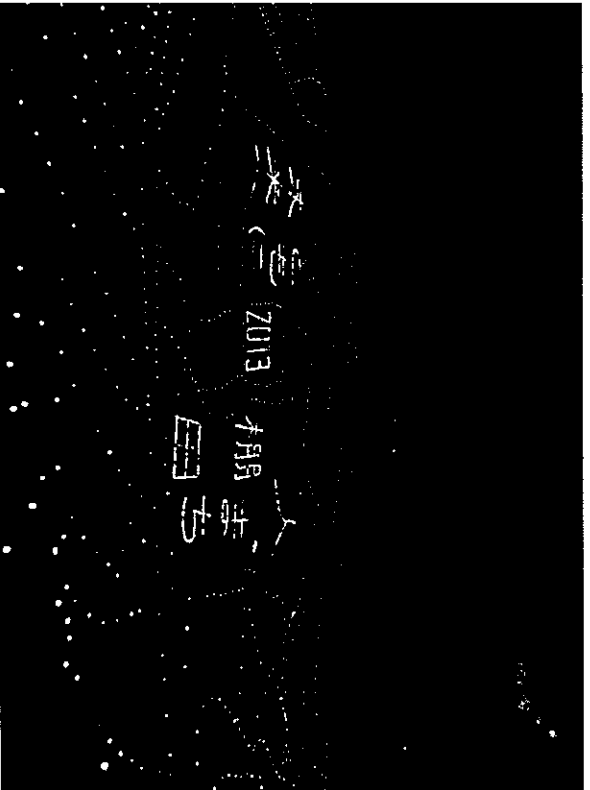
大中尾棚田

10/26(土)
火祭り



長崎市

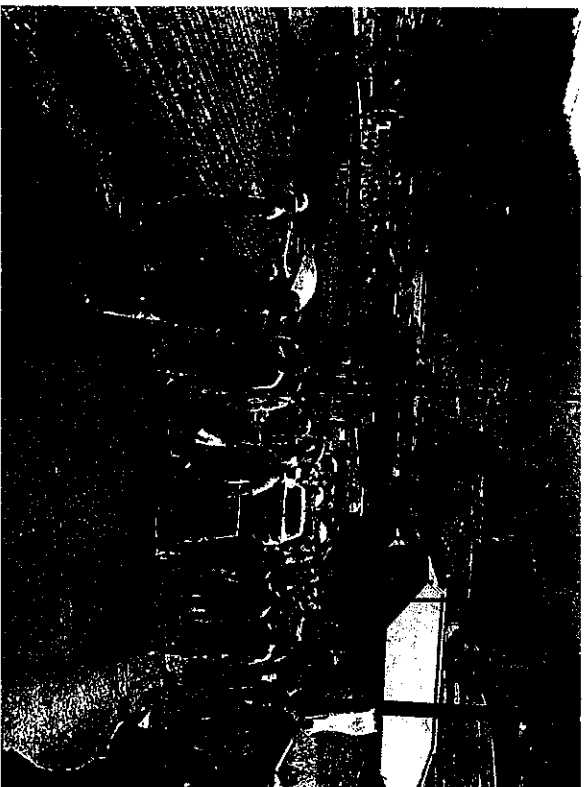
大中尾棚田



長崎市

大中尾棚田

大中尾棚田
2013
火祭り

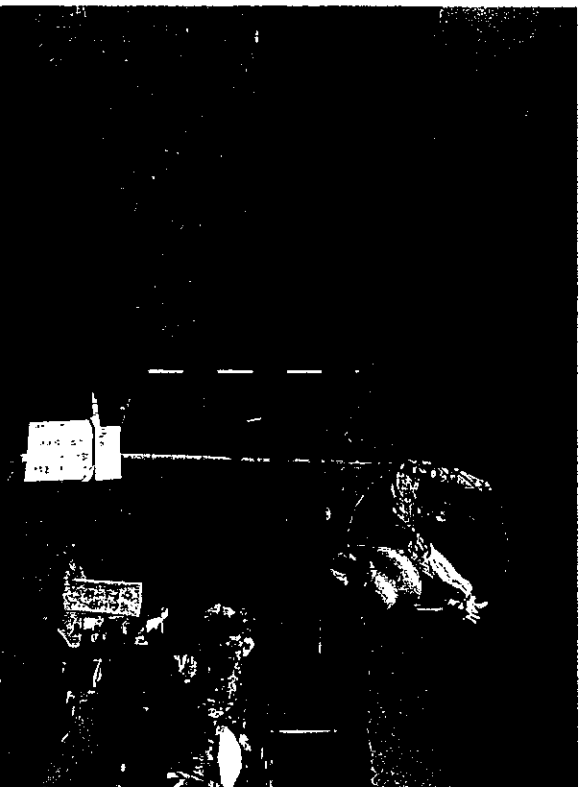


波佐見町

鬼木棚田

9/23 (月)

鬼木棚田きまつり



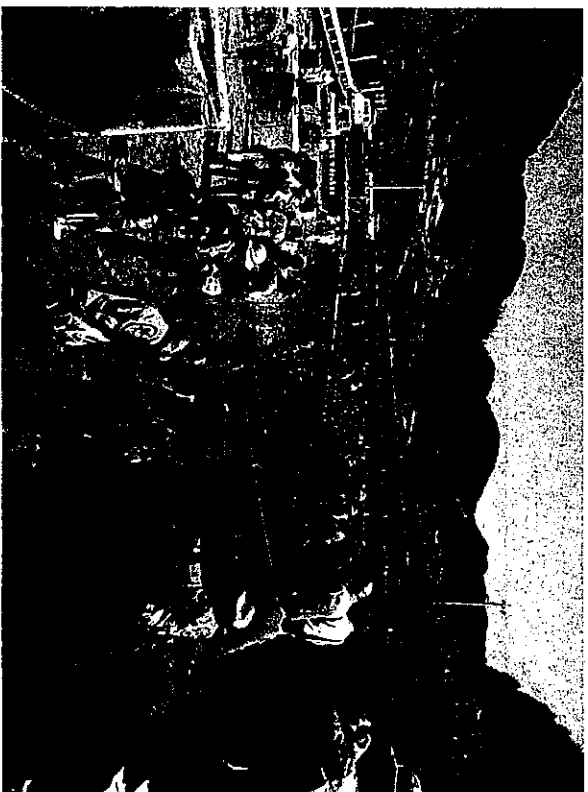
波佐見町

鬼木棚田

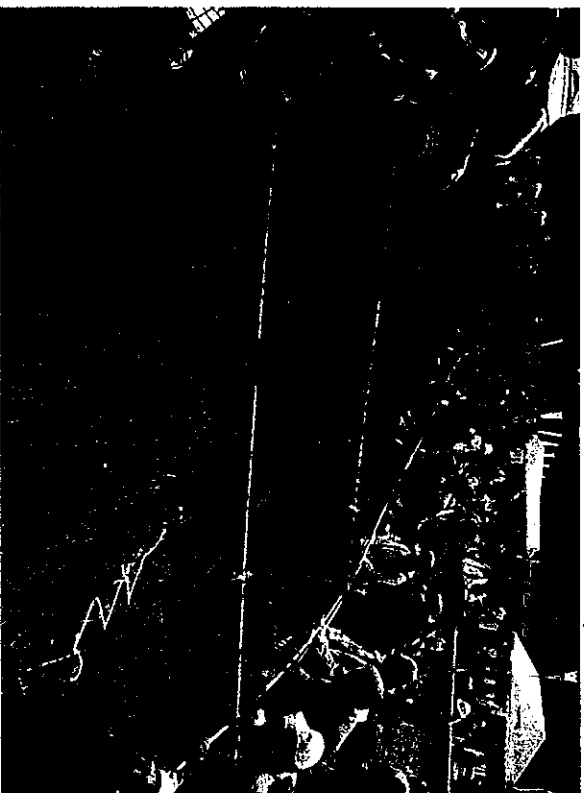


波佐見町

鬼木棚田



川棚町
木場棚田
10/27 (日)
木場棚田
たんぼんまつり



川棚町
木場棚田



川棚町
木場棚田



松浦市

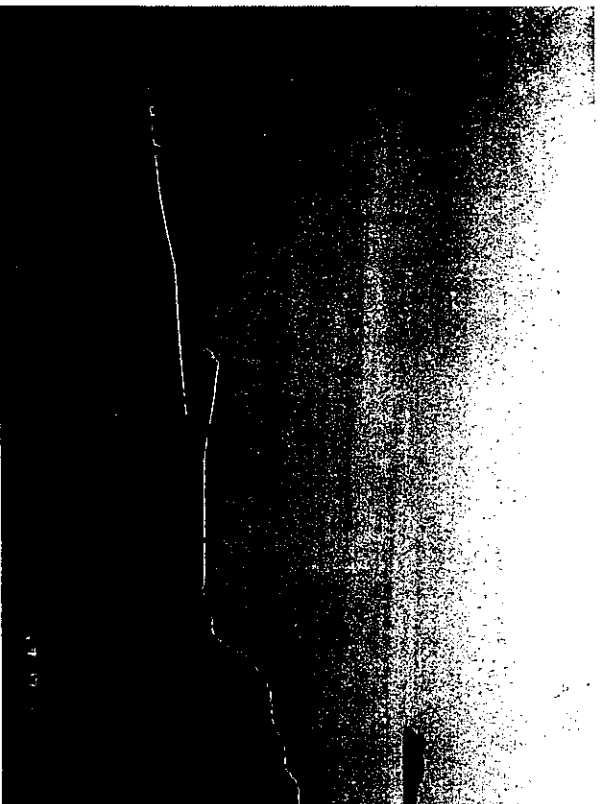
土谷棚田

9/22(日)
火祭り



松浦市

土谷棚田



松浦市

土谷棚田



雲仙市

小田山地区



雲仙市

小田山地区



雲仙市

小田山地区



南島原市
津波見地区

12/22 (日)
じゃがほろ体験会 59-779-



南島原市
津波見地区



南島原市
津波見地区